

ウスイロコノマチョウは兵庫県姫路市などで観察されているようだが、加古川や高砂には記録がない。沖縄や八重山諸島には普通に分布をするチョウだといっても、活動時間帯が夕刻以降であるため、日中に出会う機会は多くない。

このチョウと初めて出会ったのは1997年10月31日、石垣島嵩田でサンダンカの花を訪れたツマベニチョウを追いかけた足元から飛び出した本種で、すぐにウスイロコノマチョウだと分かったが、路傍のブッシュへともぐりこんだため、ハブが怖くてそれ以上の探索をあきらめたいきさつがある。その初採集となると、以下の紀行文に記述したように、まさに奇跡的タイミングで成し遂げている。

Sep. 7, 1997：石垣島

刻々と夕闇がせまる中をどんどん街へと進むうち、再びウスイロコノマチョウと思われる黒い蝶が歩道左端から車道側へと飛び出してくる。西の空はまさに夕日が沈む直前で、チョウの姿は動くカゲとしか判別できない。ましてやその飛び方ときたらヒカゲチョウ属特有の全くのランダム飛翔。少ないとはいえ車がときおりかなりのスピードで駆け抜けていく、そういう状況だが、このチョウには触手が動く。黒い動きに向かってネットを一振すると、またこれがみごとに捕獲できているからたまらない。わが動体視力と運動神経の連携プレーにほくそえむ。さらに暗闇が濃くなったというのに、瞬間わずかに自信を得たこともあって、道路から入った畑の奥にある大きなフクギの根元周辺で追飛するウスイロコノマにもチャレンジする。19時を回ったこんな時間帯にコウモリではなく活発に追飛するチョウを見るのは初めてである。そんな闇の黒い動きにアタックしてさらに2頭の新鮮ウスイロコノマチョウをゲットできたが、今宵の蝶採集体験は貴重な思い出となること間違いなし。



姿は動くカゲとしか判別できない。ましてやその飛び方ときたらヒカゲチョウ属特有の全くのランダム飛翔。少ないとはいえ車がときおりかなりのスピードで駆け抜けていく、そういう状況だが、このチョウには触手が動く。黒い動きに向かってネットを一振すると、またこれがみごとに捕獲できているからたまらない。わが動体視力と運動神経の連携プレーにほくそえむ。さらに暗闇が濃くなったというのに、瞬間わずかに自信を得たこともあって、道路から入った畑の奥にある大きなフクギの根元周辺で追飛するウスイロコノマにもチャレンジする。19時を回ったこんな時間帯にコウモリではなく活発に追飛するチョウを見るのは初めてである。そんな闇の黒い動きにアタックしてさらに2頭の新鮮ウスイロコノマチョウをゲットできたが、今宵の蝶採集体験は貴重な思い出となること間違いなし。

刻々と夕闇がせまる中をどんどん街へと進むうち、再びウスイロコノマチョウと思われる黒い蝶が歩道左端から車道側へと飛び出してくる。西の空はまさに夕日が沈む直前で、チョウの姿は動くカゲとしか判別できない。ましてやその飛び方ときたらヒカゲチョウ属特有の全くのランダム飛翔。少ないとはいえ車がときおりかなりのスピードで駆け抜けていく、そういう状況だが、このチョウには触手が動く。黒い動きに向かってネットを一振すると、またこれがみごとに捕獲できているからたまらない。わが動体視力と運動神経の連携プレーにほくそえむ。さらに暗闇が濃くなったというのに、瞬間わずかに自信を得たこともあって、道路から入った畑の奥にある大きなフクギの根元周辺で追飛するウスイロコノマにもチャレンジする。19時を回ったこんな時間帯にコウモリではなく活発に追飛するチョウを見るのは初めてである。そんな闇の黒い動きにアタックしてさらに2頭の新鮮ウスイロコノマチョウをゲットできたが、今宵の蝶採集体験は貴重な思い出となること間違いなし。

Feb. 23,26, 2015：石垣島オモト林道

かつてミカドアゲハが蝶道を成して飛び交っていた公園裏手も荒れ放題で、そこに踏み込むとウスイロコノマチョウが驚いて飛び出し、ランダム飛翔のあとみつかるものかと落ち葉の上に身を潜めるが、当方の慣れた観察眼は見逃さない。翅の傷んだ個体で、ネットイン後に翅表のきれいな模様のみを記録して放してやる。非常によく似た近縁種のクロコノマチョウは、大



きな目玉模様の中にある白点模様が、中央部から外側へと偏ることで区別できる。